

# 反改憲運動

## 通信 第4期

1部 200円  
2008. 7. 30 No. 05

〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-1-18 近江ビル4階  
Tel. & Fax. : 03-5275-5989  
E-Mail : han-kaiken-editor@alt-movements.org  
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>  
年間定期購読料 4,000円 (2008. 6~2009. 5)  
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

## 08年8.15 ヤスクニは今

靖国神社の祭日でもないのに、突如として異空間が出現する8月15日の靖国神社。

境内を描いた映画「靖国」騒動で、今年の8.15靖国は、プロ・アマ問わずのカメラ洪水の中、ヤスクニ劇場と化すのではないかと思います。

映画「靖国」は、東京を皮切りに粛々と上映が続いています。が、横浜市の映画館では右翼の街宣行動で上映を取りやめ、高知市では上映劇場に対して「上映するなら会場を爆破する」などの妨害電話が入り、支援者・県警爆発物処理班など100名を超える警戒態勢の中、入場前に観客に対し、手荷物検査と金属探知機による検査が行われるというような事態が起きています。

南京虐殺、軍隊強制慰安婦そして、靖国などを取り上げる度に繰り返される、インターネット掲示板などにおける匿名の街宣効果宣伝・脅迫電話の扇動という新たな右派の無法活動に、私たちも工夫を凝らして、声を挙げていきたいものだと考えます。

その意味では、08年平和の灯を！ ヤスクニの闇へ キャンドル行動で、8月4日から1週間にわたって【「靖国」の闇に分け入って——アートで表現するYASUKUNI】が、東京・日本教育会館のツツ橋画廊で、洪成潭（韓国）などの作品も含めて開催されることの意義は大きいものがあると思います。

今年、福田首相は靖国神社違憲参拝を強行しないと考えられますが、8.15集会などの取り組みテーマを、手元にある呼びかけ文から拾ってみますと「ヤスクニ・戦争・貧困」。「戦争の記憶」を問い続けよう。自衛隊の戦争行為をただちにやめさせよう……などがあります。

映画「靖国」騒動を引き起こした右翼議員稲田朋美は、靖国境内で、「国家の代表が国民を代表して、国難に殉じた人びと

に感謝の祈りを捧げることは独立国の権利であり義務であります。この当然のことが当然のこととして受け入れられ、議論にすらない国にするために何が必要か。そのために必要な法整備を私たちは目指します」と叫び、一方では、議員となる前に、オリックス100%子会社「オリックス債権回収」の代理人を務めていたという情報も流れていて、こうなると「ヤスクニ・戦争・貧困」そのままです。

「靖国神社には軍人しか祀られていない。靖国神社が出来たのは江戸時代」——この言葉は、私の身近なところで聞いた言葉です。

靖国神社の〈歪められた戦争の記憶〉は、沖縄において提訴された「靖国神社霊壘簿などからの氏名抹消訴訟」の原告の一人の弟が当時2歳だったにも関わらず「積極的戦闘参加者」として合祀している事実を教えてくださいません。

それにもまして、「ノー！ ハプサ」訴訟の原告の一人、金希鍾（キム・ヒジョン）さんは、靖国神社の祭神として名前が記されているのです。生きている英霊なのです。本人が神社に出向き、霊壘簿から名前を消して欲しいと頼んだにもかかわらず靖国神社は削除に応じていません。A級戦犯分祀問題どころの話ではありません。

傷口にウジがわき、鼠まで食べ尽くすという飢餓戦場は存在せず、徹底的に天皇のための「死」を美化した近現代史を映像や、巧妙に選択された「実物」で展開する遊就館を、一度は批判的に見学しておくことも〈戦争の記憶〉を問い続ける参考にはなると思います。

自衛隊の戦争行為をただちにやめさせ、新たな戦死者のための靖国神社を、平和を求める人びとの輪で廃墟にしましょう。（辻子実／「ノー！ ハプサ訴訟」スタッフ）

最近敵失のせいか9条改憲に危機感を覚えることが少なくなり、喧々囂々する気持ちも薄れているのは私だけでしょうか？◆とはいえ、テキが元気なときだけ元気になるのも本末転倒なので、24条については引き続き「改憲すべき」と折に触れて発言することにしている。「ただし男女平等つづしの意思にはすべて反対」を明言したうえで、◆3年前前にあるフェミニストMLで物議をかもし、そのときこの方向の孤軍奮闘の論客

### 憲 喧 譁 愕

をきちんと支持できなかったことに今でも忸怩たる思いがあるのだ——「婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない」という条文は、どこから読んでも異性愛以外差別。世界には同性婚を法制化した国がすでに6カ国、性別を問わず婚姻同様の権利と社会保障を認める「パートナーシップ制度」になると17カ国あるというのに。（あ）

## 8.6 ヒロシマ平和へのつどい2008

「平和を求めるなら9条を鍛えよう——核・基地・グローバル化」に参集を!

G8洞爺湖サミットは何も決められず、現代世界資本主義の危機の深刻さを明らかにした。9月2日広島でG8下院議長サミットなるものが河野洋平のイニシアチブで開催される。2002年から持たれている儀礼的な無意味なものである。今回のテーマは、「平和と軍縮に向けた議会の役割」。唯一の原爆投下国アメリカ、それにロシア、フランス、イギリスを加えた4大核保有国(核弾頭98%のシェア)と第二次世界戦争敗北同盟国の日本・ドイツ・イタリアの下院議長が、ポツダム宣言受諾日本降伏文書調印の9月2日にヒロシマで、会合を持つのである。アメリカの下院議長は核ボタンを押すことのできるNo. 3のポジションである。私たちは、ナンシー・ペロシーに原爆投下謝罪を求める。いわば、7月の札幌サミット対抗行動を受けて、8.6広島、8.9長崎、8.15靖国〜9.2を一連の問題意識でとらえている。

8月5日集会第1部は、次の6人の発言者である。木原省治(原発はごめんだヒロシマ市民の会代表、被爆二世)「僕のヒロシマノート」、舟越耿一(長崎ピースウィーク実行委員会)「ナガサキから」、繁沢敦子(「ヒロシマナガサキ(監督ステイブン・オカザキ)」共同プロデューサー)「ヒロシマ・ナガサキの継承」、湯浅一郎(ピースデポ代表)「北東アジア・9条・非核地帯」、ピースサイクル全国ネット、在ブラジル被爆者。

第2部では、レベッカ・ジョンソン(アクロニム軍縮外交研究所所長、英国)の「ファスレーン、ヒロシマ、アクション」という講演と豊島耕一(ファスレーン365日本実行委員会代表)のコメントを受けての討論。レベッカは、非暴力反基地反核直接行動のリーダーであり、国際反核運動の理論的指導者である。イギリス・スコットランド・ファスレーン原潜海軍基地での迫力ある大衆運動に学び、この日本で、米軍再編、反基地、反核反戦運動に導入できないかとの問題意識である。彼女は、具体的な討論と行動をヒロシマに求めている。

その他にもフィールドワーク2008(「みどり麗しい平和公園、その三尺下には焦土と死が埋まっている。賑い立つ町並みのあちこちに旧軍國日本の影さすところ、それが広島だ」)、スタディクルージング2008(海から見る! 戦争遺跡と軍事施設)を用意している。このクルージングの後、長崎に移動する。ぜひ、結集を。

(久野成章/8.6ヒロシマ平和へのつどい2008実行委員会)

**つどい: 8月5日(火) 17:00~ / 広島市民交流プラザ**

事務局: 〒733-0022 広島市西区天満町13-1-709 久野方

Fax 082-297-7145 / 電話 090-4740-4608

Eメール kunonaruaki@hotmail.com

ホームページ <http://www.d6.dion.ne.jp/~knaruaki/>

## ピースウィーク2008 in Nagasaki

「格差社会は戦争への道 憲法9条は平和への道」への参加を呼びかけます!

今年22回目のピースウィーク in Nagasakiのキャッチコピーは「格差社会は戦争への道 憲法9条は平和への道」となりました。コピーはいつも散々議論した後、出席者の多数決で決めます。講演会中心の以下のような企画となりました。いま実行委員会は圧倒的に女性中心で、学びの姿勢にあふれています。被爆体験を語り継ぐ会、ピースクルーズ、市民集会、ピースバスは相変わらず健在です。ピースウィークの基本姿勢を示す次の文章も変わりません。

「平和は自分たちの手でつくりあげるものだと考えたい。いま、市民一人ひとりによる平和への努力こそ大事である。草の根の市民団体などがいっしょになって、それぞれが手作りの平和運動を企画・運営し、多くの市民の主体的参加を呼びかける。」

ピースウィークを通じて全国の方々との出会いが重なり、多くのことを学んできました。そして西の端の長崎でひたすら自分たちの言葉で運動をつくってきたと思います。今年もまた皆さんとの再会を楽しみにしています。長崎の外からだからこそ見えるという視点から長崎の市民運動に望むことを伝えに来てください。8日の夜は交流会を行うつもりです。どなたでもおいでください。教育文化会館4階のネットワークでお待ちしています。

(舟越耿一/市民運動ネットワーク長崎代表)

**8/2(土)** 教育基本法改悪で何が変わったのか——長崎県の教育政策を斬る/太田吉弘/14:00~/長崎市教育文化会館/500円

**8/3(日)** 憲法を変える・変えないの精神分析/香山リカ/14:00~/原爆資料館ホール/1000円

**8/4(月)** 戦争の加害者にも被害者にもならないために/吉田敏弘/18:30~/長崎市教育文化会館/500円

**8/5(火)** 再処理もんじゅ、行き着く先は核武装か?/藤田祐幸/18:30~/長崎市教育文化会館/500円

**8/6(水)** 稲佐山の夏~第2幕(地元バンドを中心に)/16:30~/稲佐山野外ステージ/無料

**8/7(木)** どうして日本に平和省がないの?/きくちゆみ/18:30~/長崎市教育文化会館/500円

**8/8(金)** 端島・高島ピースクルーズ/大波止(おおはと)ターミナル14:00出港~16:00帰港/大人3000円・高校生2000円・小中生1000円

**8/8(金)** 被爆体験を語り継ぐ会——私たちが出会った在韓被爆者/高校生1万人署名訪韓団/18:30~/長崎市教育文化会館/500円

**8/9(土)** 10:00~/爆心地公園でピースウィーク市民集会/13:00 爆心地公園を出発/ピースバス/大人2000円・子ども1000円

▶主催:ピースウィーク2008実行委員会(代表は置いていません)/▶連絡先:長崎市筑後町2-1 教育文化会館内 市民運動ネットワーク長崎(Fax:095-822-4098)

## 〈戦争の記憶〉を問い続けよう! ◇8・15反「靖国」行動へ参加を!

多様な人びとによって多様に取り組みられた洞爺湖サミットへの反対行動。反天皇制運動の立場から言えば、サミットに前後して宮中晩餐会が行われるかどうかに関心の的だった。東京でサミットが行われたときにはもちろん、2000年の沖縄サミットでも、皇太后の死によって急遽中止になったが、晩餐会は予定されていた。天皇が外国の首脳を招いて宴会を主催し、そこで「おことば」を述べるという行為はたしかに儀礼だが、この儀礼こそ帝国主義の頭目が集まって世界のことを談合する、サミットそのものを美化する政治的行為となるのだ。

結果として今回それはなかったが、私たちがこういうことを意識し続けなければならないのも、「皇室外交への期待」を担って登場し、ヒロヒトが決して足を踏み入れることのできなかったアジアをはじめとする各国を、「精力的」に回り続けたのが現天皇だったからだ。

このアキヒト即位から20年を迎えようとする今年、それを「奉祝」しようという右派の動きが開始されている。日本会議系の「天皇陛下御即位二十年奉祝委員会」(名誉会長・御手洗日本経団連会長、会長・岡村日商會頭)の設立総会では、町村官房長官、伊吹自民党幹事長、鳩山由紀夫民主党幹事長などが来賓として挨拶、また、島村宜伸を世話人として設立準備が進んでいる超党派の「奉祝国会議員連盟」と連動して、

今年11月9日に「奉祝中央式典」を、来年11月12日に皇居前での「国民祭典」を実施し、10万人規模の提灯行列も計画していることが発表された。今後、国会に対して「11月12日を臨時休日とする法律」の制定を求め、政府主催の記念式典など、各種記念事業の実施などを働きかけるといふ。

私たちは、この「在位20年」をめぐる動きが、アキヒト天皇制を総括するひとつの節目となり、それはやがて到来する「Xデー」へと連続していくに違いないと考える。そしてその全体が、アメリカの戦争に荷担し続ける日本国家の、戦争国家の「完成」と軌を一にしたものとして、進められようとするだろう。

今年も8月15日には、政府主催の全国戦没者追悼式が、天皇出席のもとで行われる予定だ。多くの国会議員もまた靖国神社に参拝するだろう。これらを通じてなされる過去の戦争の死者に対する讃美は、現在と未来の戦争の死者をも讃えるのだという国家意志の表明だ。私たちはこうした「慰霊空間」に反対の声をあげるべく、今年も当日の集会とデモに取り組む。靖国方面へのデモに続き、夜は一方通行的になりがちな講演ではなく、参加者相互がディスカッションできるような集会を持ちたいと、いろいろ工夫しているところである。ぜひ、多くの人の参加を訴えたい。【集会情報は6面に掲載】

(北野 誉／実行委員会)

## 8.13~16「講演と映像ドキュメント・戦没学生遺稿展」への参加を

▶日本戦没学生の手記『きけ わだつみの声』は「学徒出陣」してついに還らなかった若者たちの遺書として読みつかれ、彼らの死の意味を読者に問い続けてきました。

▶その戦没学生の追悼をとおして平和の創造へ向かう活動を志し、実行してきた「日本戦没学生記念会(わだつみ会)」は「学徒出陣」65周年の今年、「講演と映像ドキュメント・戦没学生遺稿展」を準備しています。

.....

### わだつみ会8・15集会 2008年——「学徒出陣」65周年記念 講演と映像ドキュメント・戦没学生遺稿展

主催：日本戦没学生記念会(わだつみ会)

共催：わだつみのこえ記念館

とき：8月13日(水)~16日(土)

ところ：江戸東京博物館ホール(JR両国駅西口徒歩3分)

東京都墨田区横綱1-4-1(電話03-3626-9974)

#### ●13日(水) 13:00~(資料代300円)

〈わだつみのこえ記念館所蔵映像資料の上映〉オープニング・メッセージ／日本ニュース177号『学徒出陣』(1943年、日本映画社)／新作『きけ、わだつみの声』(監督：出目昌伸、1995年)／『ぼくもいくさに征くただけだ——竹内浩三：戦時下の詩と生』(2007年、NHK)

#### ●14日(木) 10:30~(資料代300円)

〈わだつみのこえ記念館所蔵映像資料の上映〉日本ニュース177号『学徒出陣』(1943年、日本映画社)／旧作『きけ、わだつみの声』(監督：関川英雄、1950年)／『映像記録史・太平洋戦争』(前編・後編、1991年、NHK)／『東京大空襲——子どもたちの証言』(監督：池田博穂、1993年)

#### ●15日(金) 13:30~(参加費1000円)

〈講演〉近藤 一「戦争への道を許すまじ——中国戦線と沖縄を語る」／[近藤 一]1920年、名古屋生まれ。1940年12月、独立歩兵第13大隊第2中隊に入隊、ただちに中国山西省遼県へ送られ、初年兵教育を受け、同地での諸討伐作戦、河北作戦、河南作戦に参加した。44年8月、沖縄守備隊へ編入される。45年4月の米軍上陸以来、6月に捕虜となるまで重傷を負いつつも最前線で死闘をくり返す。戦後は、80年代前半の教科書問題をきっかけに今日まで、中国戦線と沖縄戦をつなぐ語り部として貴重な証言活動を続けている。

〈映像ドキュメント〉元学徒兵の証言(大塚雅彦・久米茂・鈴木均、1993年)

#### ●16日(土) 10:30~(参加費1000円)

報道ニュース(2006年)／『政府派遣遺骨収集の記録』(2002年、NHK)／『遅すぎた聖断——検証：沖縄戦への道』(1988年、琉球放送)／『ドキュメント沖縄戦』(1995年、沖縄戦記録フィルム1フィート運動の会)／ドキュメンタリー映画『ひめゆり』(監督：柴田昌平、2007年)

\* \* \* \* \*

●ホールのロビーで戦没学生遺稿展(わだつみのこえ記念館特別展示)を開催(入場自由)

13日：13:00~17:30／14~16日：10:00~17:30



## 報告◆原子力空母の横須賀母港化を許さない7.19全国集会

### 7月19日 横須賀全国集会に1万5,000人

猛暑の中、横須賀の臨海公園（ヴェルニー公園）には全国各地から続々と参加者が集まった。個人的な思いだが、全造船関東地協の200名ちかい隊列に、「石川島分会」という旗に、感動を覚えずにはいられなかった。職場での差別と抑圧の過酷さを少しでも知るものとしては、「まだこれだけの組合員がいるんだ」と涙が出る思いだった。集会の参加者、実に1万5,000人。本当に全国各地から多くの仲間が集まった。集会を準備した人々の胸の中にあったのは、1973年の空母ミッドウェイ配備以来の空母母港35年に対する怨念とも言える思い。アフガン戦争でもイラク戦争でも空母キティホークは重要な役割を果たした。「このまま原子力空母を配備させて、たまるか」、その思いが準備活動に拍車をかけた。各地から駆けつけてくださった皆さん、心からお礼申し上げます。

プレイベントのあと、午後2時から集会開始。平和フォーラムの福山さんは、「アメリカの侵略戦争を支える空母の母港化、原子力空母を阻もう」と主催者挨拶、沖縄平和運動センターの山城さんは7月18日に与野党逆転した県議会で辺野古移設反対が決議されたことをアピール、社民党党首福島瑞穂さんの連帯挨拶、民主党那谷屋議員の挨拶、「住民投票を成功させる会」の呉東正彦さんは、原子力空母が一度事故を

起こせば、東京湾を囲む首都圏各地の住民に被害をあたえることを強調し、火災原因もいまだに発表しないアメリカ海軍を厳しく批判し、26日の火災事故の真相究明を求めるシンポジウムへの参加を訴えた。厚木基地爆音防止期成同盟を48年の長きにわたって牽引してきた鈴木保委員長が84歳の高齢を押して登壇し、「私たちは闘ってきたが、子や孫の世代に何を残せるかと考えるとまだまだだ」と檄を飛ばし、万雷の拍手を浴びた。集会宣言のあと、デモ行進に出発。

翌日の「神奈川新聞」は、アメリカ海軍のウィンター長官の「経過は良好、問題は電気系統やデータシステムが適正に作動しているかどうかだ」との発言を紹介。アメリカ海軍は火災事故の原因を発表しないまま、横須賀入港を強行しようとしている。おそらく、9月から10月。入港時は再び横須賀へ結集を。

（木元茂夫／すべての基地に「No!」を・ファイト神奈川）

### 横須賀集会へ海外からもたくさんの激励

7月19日の横須賀集会へは、アジア、太平洋、北米、中南米、欧州で反基地活動に取り組む人びとから多くの激励メッセージが寄せられた。「皆さんが全世界のためにおこなっている重要な行動に深遠なる感謝を送ります！」とハワイのシャノンさん。

（笠原 光／ピープルズ・プラン研究所）

## 報告◆7.20「言論弾圧の水脈——横浜事件から立川反戦ビラ弾圧へ」

7月20日、文京区民センターにて、「立川反戦ビラ弾圧救援会」と、「横浜事件の再審を実現しよう！全国ネットワーク」との共催による集会「言論弾圧の水脈——横浜事件から立川反戦ビラ弾圧へ」が行われた。

集会は三部構成で、第一部は小田中聡樹さん（東北大学名誉教授・刑法）の講演「言論弾圧と司法の戦争責任——そして現代」。第二部はそれぞれの当事者から、横浜事件再審弁護団の大島久明さん、原告の木村まきさん、立川事件からは栗山れい子弁護士、救援会の岡田健一郎さん、元被告の私が発言。さらに、国賠ネットワークの土屋翼さん、葛飾マンションビラ弾圧被告の荒川庸生さんが連帯あいさつを行った。第三部は「抵抗の言論と表現——現在と未来」と題して、『世界』編集長の岡本厚さん、一橋大学・フランス思想の鵜飼哲さん、反天皇制運動連絡会の天野恵一さんがシンポジウムをおこなった。

第一部の小田中さんの講演は、改憲と海外派兵が進行する現在の言論弾圧の状況、戦前の治安維持法を使って積極的に言論弾圧を実践し、戦後は誰一人公職追放にもならなかった裁判所の戦争責任の問題などについて、体系的に分析する内容だった。戦前と戦後との違い、戦後は憲法が存在し、権力も思想そのものは弾圧できず司法による正当性を一定でも必要とするという状況を、いかに私たちが活用するかが重要であると語っていた。

第三部では、司会が横浜事件の判決が戦後だったことに触れ、

戦前と戦後の違いについて三者に質問した。

鵜飼さんは、戦後はこれまで民衆の力で権力の暴走や戦前への回帰を食い止めてきたが、現在は社会性を奪う思考が主流化し、たとえば「人に迷惑をかけない」（敗戦直後の学校では民主主義の本質として語られたことがあった）などといった戦前的メンタリティーがまた復活してきていると語った。

岡本さんは、横浜事件は言論弾圧ではない、なぜなら戦前の当時は検閲下で自由な言論そのものがなかったし、被害者らの論文は検閲を通過し、戦争や天皇制を批判していないからだ、と述べた。

天野さんは、横浜事件の中心であった中央公論や改造の言論人たちはマルクス主義あるいはリベラル左翼知識人であった。彼らの行為には何もなかったのではなく戦争の意味付けを広めたという意味があった。彼らが転向・翼賛することで体制に読者を取り込んでしまった。そして戦後はまた反転して左翼時代そのままに啓蒙知識人として戻ってきたという問題、彼ら固有の戦争責任が不問に付され戦後はスタートした、と発言した。

その後は、朝日新聞のビラ弾圧についての社説の変節や、サミットで多くの外国人から聞かれた日本の警備体制の異常さなどの論点が出され議論となった。参加者は約160人。言論弾圧の状況について戦前と戦後の違いについて改めて考えさせられた。

（大西一平／立川自衛隊監視テント村）

# 反改憲ニュースクリップ

08年7月13日～7月23日

## 福田政権支持率 「サミット祝儀」も効かず依然低迷

【7月13日】朝日新聞社の全国世論調査によると、福田内閣の支持率は24%（前回調査では24%）で低迷、4月から30%割れが続いている。不支持率は58%（同59%）。北海道洞爺湖サミットで福田首相が議長として指導力を「発揮した」とする人は24%にとどまり、「そうは思わない」が60%を占めた。サミットは政権の浮揚にはつながらなかった。サミットでは主要8カ国が温室効果ガスの50年までの半減を世界に呼びかけることを決め、主要排出国会議では数値に触れず目標を共有することで合意した。この評価をあわせて聞いたところ、「評価しない」が53%で、「評価する」の32%を上回った。中国やインドなどの新興国が、先進国の温室効果ガス大幅削減が先だと主張していることについては、「納得できる」37%、「納得できない」50%だった。米国が北朝鮮に対するテロ支援国家の指定解除の手続きに入ったことについても聞いた。「評価する」は17%にとどまり、「評価しない」が71%に達した。指定解除の動きが日本人拉致問題の解決に与える影響では、「悪い影響」を懸念する人が51%、「影響はない」が30%、政党支持率は自民26%（前回22%）、民主24%（同22%）だった。

【7月15日】〈グリーンピース保釈〉環境保護団体「グリーンピース・ジャパン」のメンバーが調査捕鯨の鯨肉を無断で持ち出した事件で、青森地裁は窃盗と建造物侵入の罪で起訴された2名の保釈を認める決定を出した。青森地検は決定を不服として準抗告したが、青森地裁は棄却。青森地裁によると、保釈保証金はいずれも400万円で、即日納付された。

【7月16日】〈イラク削減、アフガン増派〉ゲーツ米国防長官とマレン米統合参謀本部議長がこの秋にイラク駐留米軍を削減する一方、アフガニスタンには増派する方針を明らかにした。ゲーツ長官はアフガン駐留延長の可能性を排除する代わりに、イラクに派遣する予定だった部隊をアフガンに振り替える意向を示し、アフガン増派の早期実施に努めていることを明らかにした。また、マレン議長は、先日のイラク視察で現地情勢に「改善」がみられたと述べ、イラク駐留米軍の削減を提案できる理由になるだろうとの認識を示した。現在保留されている駐留部隊削減要請はないという。アフガン東部では13日、国際治安支援部隊（ISAF）の米兵9人が、旧政権タリバーンの戦闘員約200人との交戦で死亡し、ここ3年で最悪の事態となった。ISAFの死者数は今年5月以来、イラク駐留多国籍軍の死者数を上回っている。今月のアフガン死亡米兵は15人と、イラク死亡米兵（6人）の倍以上に膨らんだ。

マレン議長は、「アフガンの敵は勢力を増し、巧妙かつ多様化している。われわれは敵を圧倒する能力があり、そうしなければならない」と語った。

【7月18日】〈沖縄県議会が辺野古移設反対を決議〉沖縄県議会の6月定例会が最終本会議で、野党6会派が提出した普天間飛行場の移設先となる名護市辺野古沿岸域への新基地建設に反対する決議・意見書を、野党の賛成多数で可決した。日米両政府の合意した現行案（V字形）に県議会が反対決議をしたのは初めて。決議・意見書は日米両政府や仲井真弘多知事に対し、新基地建設の断念を求める内容。後期高齢者医療制度の廃止を求める意見書も野党の賛成多数で可決された。議決では野党側は照屋大河氏（社民・護憲ネット）が「たらい回し的に県内移設したところで抜本的解決にならない」、前田政明氏（共産）が「海外侵略の恒久的な米軍新基地を建設させてはならない」と支持を訴えた。〈ブータン憲法〉ブータンのワンチュク国王が同国初の成文憲法に署名した。憲法は即日施行された。議会制民主主義のほか、国王の65歳定年制や国土の60%を森林として残すことを明記するなどユニークな内容を盛り込んでいる。また、ブータンが提唱している、自然や文化を保全しながら独自の発展を進める国民総幸福（GNH）という概念が反映され、「国は文化遺産を守り奨励するように努める」「生物多様性の保全への貢献は国民の義務である」と明記されている。〈韓国大統領〉韓国の世論調査機関リアル미터が実施した調査によると、李明博大統領の支持率は前週比6.9ポイント減の17.8%となった。米国産牛肉の輸入再開問題が収束し、李氏の支持率は6月中旬以降、20%台を回復していたが、北朝鮮兵士による韓国人観光客射殺事件後の対応に批判が出ている。

【7月19日】〈三沢〉航空遠征軍としてイラクに派遣されていた米軍三沢基地（第35戦闘航空団）のF16戦闘機が昨年8月アフガニスタン東部を夜間に精密爆撃する秘密任務に就いていたことが米軍資料などから分かった。往復7,000キロ近い長距離飛行で、日米の軍事専門家は「核開発を進めるイラン攻撃のリハーサルだった可能性がある」と指摘する。これまで、SEADと呼ばれる防空網制圧を主任務にしていた三沢のF16が、米空軍が世界戦略を視野に推し進める「グローバル・ストライク（全地球規模での長距離先制攻撃）」という、新たな役割を担っていることを証明した。

【7月20日】〈辺野古〉名護市辺野古への新基地建設に反対する決議を18日に賛成多数で可決した県議会の野党議員らが米軍普天間飛行場移設先の辺野古海岸を訪れ、建設反対の座り込みを続ける住民らと意見交換し、移設阻止に向け、連帯を強化することを確認した。

【7月23日】〈イラク撤退〉ブラウン英首相は英下院でイラク情勢をふまえ、駐留英軍は「09年前半に任務が根本的に変わることになる」と述べ、部隊の大半を撤退させる方針を示唆した。削減幅は明言しなかったが駐留規模が「2、3百人」になるといわれている。



# 私も一言 69

遠藤洋一 (前福生市議)

午後5時。書斎に座っていると日によって、天候次第で遠く、近く、ラッパの音に始まる二つの曲が流れる。ひとつは「君が代」二つ目は「The Star-Spangled Banner」もちろんアメリカ合衆国・国歌「星条旗」。これが、毎日、横田基地内の巨大なスピーカーから流される。曲を好きも嫌いもない、強制的に福生市民は二つの曲を聴かされる。迷惑な話だ。

この現象は「米軍再編」で航空自衛隊の司令部の移転作業が始まった「記念」ではない。すくなくとも、私が「反戦米兵支援」で横田詣でをしていた、1970年には聞こえていた。

そして、横田基地への「航空自衛隊総隊司令部」移駐は、着々と進行している。新聞報道によれば在日米軍司令部の前庭に、自衛隊司令部建設がはじまった(08年3月)。そして、横田基地の南側、立川側には「自衛隊工事専用ゲート」が設置され、福生市には25万立米、10tトラックで一日200台分の土砂が搬出される旨の連絡も来ている。米軍再編の計画書(ロードマップ)の中でも数行に過ぎない、航空自衛隊総隊司令部の横田基地への「移設」の中身は、地上3階、地下2階の「司令部」だけではない。600人の要員=兵士、その家族、関連施設だ。2007年度の予算概要をみても、144億円の当初予算には、司令部施設、下士官学校、厚生施設、託児所、売店などの調査費、検討費などが計上されている。総額でも270億円の大移動は、周辺自治体への「再編交付金」なども含めると、巨大な金を食う「日米」の軍事一体化なのだ。

米軍再編でただひとつ、米軍基地に自衛隊がやってくるケースの横田基地。毎日流される二つの曲は、どここの基地でも流されているのだろうか。

## 集会・行動情報 8/2~8/15

▶8/2(土)~9(土) ピースウィーク2008 in Nagasaki ◆→ 2面参照

▶8/2(土) G8サミットを問う連絡会北海道行動報告集会——洞爺湖サミットを最後のサミットに! ◆行動報告と問題提起/ビデオ上映ほか ◆13:15~ ◆文京区民センター 3A (地下鉄都営三田線春日駅すぐ) ◆500円 ◆主: G8サミットを問う連絡会 (日本消費者連盟 [03-5155-4765]、ATTACジャパン [03-3813-6492])

▶8/3(日) 公開講座: G8サミットとは何だったのか ◆国富建治 ◆13:50~ ◆池袋・豊島区民センター 3F 和室 (JR池袋駅下車) ◆500円 ◆主: アジア連帯講座 (03-3372-9401)

▶8/5(火) ヒロシマ平和へのつどい2008 ◆→ 2面参照

▶8/6(水)~8(金) 被爆体験を次の世代に〈被爆体験を聞く会〉 ◆6日13:00~/7日・8日9:00~ ◆日野市役所 1階101会議室 ◆パネル展は期間中常時 (同市役所 1階ロビー) ◆主: 被爆体験を聞く会 (自治労日野市職員組合 042-582-2784)

▶8/9(土) 沖縄・辺野古はいま ◆講師: 吉田正司 (沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック) ◆18:00~ ◆中野商工会館大会議室 (JR中野駅北口徒歩7分) ◆500円 ◆主: 戦争に反対する中野共同行動 (090-5344-8373)

■関東大震災85周年朝鮮人犠牲者追悼シンポジウム——事件の真相糾明と被害者の名誉回復を求めて ◆徐紘一、山田昭次、姜徳相、琴秉洞 ◆10:00~ ◆在日本韓国YMCA spaceYホール (JR水道橋駅徒歩6分) ◆1000円

◆主: 同シンポジウム実行委員会 (03-6413-7104)

▶8/10(日) 東京が焼かれた日——東京大空襲訴訟 ◆榎本喜久治 ◆14:00~ ◆柴崎学習館3F第三教室 (旧中央公民館/JR立川駅南口徒歩8分) ◆500円 ◆主: 市民のひろば・憲法の会 (042-524-9863 かとう、他)

■2008 平和の灯を! ヤスクニの闇へ キャンドル行動——ヤスクニ・戦争・貧困 ◆13:30~ ◆日本教育会館 (地下鉄都営新宿線ほか神保町駅A1出口徒歩3分) ◆1000円 ◆同キャンドル共同行動実行委員会 (03-3355-2841)

■戦争責任を問い戦後補償を求め平和をつくる8・10集会 ◆早乙女勝元、土屋公献、星野弘、中山武敏 ◆13:30~ ◆台東区民会館 8F 第2会議室 (都営浅草線浅草駅) ◆500円 ◆主: 東京大空襲訴訟原告団ほか (03-3616-5531)

▶8/13(水)~16(土) わだつみ会/講演と映像ドキュメント・戦没学生遺稿展 ◆→ 3面参照

▶8/15(金) 〈戦争の記憶〉を問い続けよう! ——8・15反「靖国」行動 ◆デモ ▶14:30~/西神田公園 (JR水道橋駅徒歩7分) ◆集会 ▶17:45~/千駄ヶ谷区民会館 (JR原宿駅徒歩15分) /太田昌国、日野直近、成澤宗男、天野恵一 ◆主: 8.15反「靖国」集会実行委員会 (090-3438-0263)

■丸山眞男手帖の会第9回「復初」の集い ◆13:00~ ◆千代田区星陵会館 (地下鉄永田町駅3分) ◆朗読・スライド上映「昭和8年 手記 断片」、ディスカッション「丸山眞男をどう読んできたか、いかに読んでいくか」(黒川創・佐川光晴ほか) ◆資: 1000円 ◆主: 丸山眞男手帖の会 (03-6760-9606)

### 事務局から~

◆ぜひ定期購読を! 年間定期購読費(第4期:2008年6月~2009年5月/月2回発行/24号分)は4,000円です。郵便振替口座をご利用ください。

◆本紙事務局(事務所)にはスタッフが常駐していません。事務局への連絡や購読申込み等はファクシミリか電子メール、お葉書が確実です。